

「食事のおしゃべりに、心を込めて」

西部中学校 三年四組 生倉みのり

給食の前には「いただきます」食べた後には「ごちそうさま」。これは日本の食事のマナーで当たり前です。私は食事のあいさつを大切にしています。だからこそ私には皆のもつていらない自分で食事のあいさつがあります。給食を残すときの「めんなさい」です。

食べ物を残す時の「あいさつは小さいころに母に教えてもらつたものです。食事をつくった人や命をくれたものに対しても「ただいま」、「わいわいやま」はもしからん、それを食べられない」と対して「めんなさい」と叫ぶのです。

私は食物アレルギーがあります。卵やナッツ類は食べませんし、小学校低学年のころは毎日給食で牛乳も飲めませんでした。だから給食の時にはいつも「めんなさい」。私は給食を食べるのが好きです。だからいつも好き嫌いはしない少し量が多くともなんとか全て食べています。しかし、食べられないものは食べられないのです。

近年、学校側の食品アレルギーへの対応が手厚くなってきています。サラダへのナッツを入れやマヨネーズがノンエッグのものになつてしたりして、私は給食を前程残さずにするようになりました。給食が好きな私からすると嬉しさひととじで、何より毎日の給食が「いただきます」と「わいわいやま」だけで済むのはとても幸せなことです。

「いただきます」「わいわいやま」も給食では大切なことです。感謝という意味合いでの大切さはもちろん、クラスの皆が手を合わせて息を合させて食事のあいさつをするという方の大切さです。「いただきます」一人で食事の前にやうやくのは簡単ですが、

クラス全員二十人、いや四十人がそろつて言うなんていうのは小学校、中学校、もしかしたら高校までしか体験できない貴重な体験だと思うのです。中学校に入つて給食の前の「いただきます」は小学校のころの「元気がなくなっています。それどころか声が小さかったり言わなかったりする人さえいます。合唱コンクールや体育大会でなくともクラスが団結して思い出をつくることはできるはずです。「いただきます」「うれしうさぎ」の本来の意味合いを大切に皆であわせて食事のあいさつをする貴重な時間や戦後給食がはじまってから続くこの伝統も大切にするべきです。

食事のあいさつには人の想いがこめられています。「これがいいと給食は始まりも終わりもしません。これがあつてこそおいしい食事なのです。クラスの皆と一緒においしい給食を食べる、その為にも私は食事のあいさつをとても大切にしています。だから、小学校や中学校に通う皆さんもこの言葉を大切に、そうでない人も声に出して「元気よく、

「いただきます」と言つてみてはどうでしょうか。

